
マザーレイクゴールズ(MLGs)学習動画
-動画内容説明書-

滋賀県 琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課

目次

はじめに	1
動画内容説明書について	1
学習動画について	1
マザーレイクゴールズ(MLGs)とは	1
びわ湖の課題と MLGs	2
オープニング	2
琵琶湖の概要	3
琵琶湖の課題	5
MLGs の概要	7
エンディング	8
暮らしの中の MLGs	10
オープニング	10
Goal1 清らかさを感じる水に	11
Goal2 豊かな魚介類を取り戻そう	12
Goal3 多様な生き物を守ろう	13
Goal4 水辺も湖底も美しく	14
Goal5 恵み豊かな水源の森を守ろう	16
Goal6 森川里湖海のつながりを健全に	17
Goal 7 びわ湖のためにも 温室効果ガスの排出を減らそう	18
Goal 8 気候変動や自然災害に強い暮らしに	20
Goal 9 生業・産業に地域の資源を活かそう	21
Goal 10 地元も流域も学びの場に	23
Goal 11 びわ湖を楽しみ 愛する人を増やそう	24
Goal 12 水とつながる祈りと暮らしを次世代に	25
Goal 13 つながりあって目標を達成しよう	26
取組事例紹介 駒井健也さん	27
取組事例紹介 清水広行さん	29
エンディング	31
MLGs に関連する WEB サイト	31

はじめに

動画内容説明書について

本動画内容説明書は、授業などにおいて補助教材として活用いただけるマザーレイクゴールズ(MLGs)学習動画の内容説明書です。動画の構成や各チャプターの内容、映像の補足情報、授業などでの活用ポイントなどが記載されています。

▼動画は下記の URL を入力、または、二次元コードを読み取ることで見ることができます。

〈URL〉

- びわ湖の課題と MLGs: <https://youtu.be/vXFKvcJTDe8>
- 暮らしの中の MLGs: <https://youtu.be/HuIe37rAtUc>

〈二次元コード〉

びわ湖の課題と MLGs	暮らしの中の MLGs
	

学習動画について

本動画は琵琶湖の概要や MLGs の策定経緯と概要を説明する「びわ湖の課題と MLGs」と、MLGs の 13 のゴールの概要とアクション例を説明する「暮らしの中の MLGs」の 2 本に分け、小中学生が MLGs の内容や具体的な実践方法などについて理解を深められるよう構成しています。

マザーレイクゴールズ(MLGs)とは

「琵琶湖」を切り口とした 2030 年の持続可能な社会へ向けた目標(ゴール)です。「琵琶湖版の SDGs」として 2030 年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に 13 のゴールを設定しています。



びわ湖の課題とMLGs



【本動画の概要】

本動画は、MLGs の内容説明を目的としています。動画の前半では、琵琶湖について、その成り立ちや歴史的な役割、そして現代の環境問題を説明しています。後半では、MLGs の策定の流れや、SDGs との関係性といった概要を説明しています。

◆ 総再生時間：9 分 56 秒

◆ チャプター

1. オープニング (0:00～)

3. 琵琶湖の課題 (02:31～)

2. 琵琶湖の概要 (01:47～)

4. MLGs の概要 / エンディング (05:51～)

オープニング

■ チャプター1 (0:00～)



概要

琵琶湖は昔から私たちの生活を支えてきた大切な湖です。約 50 年前、環境を守るために「石けん運動」が始まり、現在もその想いは受け継がれています。少しずつ水質は改善されていますが、昔のような豊かな生態系は戻っていません。一人ひとりが力を合わせて持続可能な社会を目指すために、琵琶湖の未来を守る目標「マザーレイクゴールズ(MLGs)」が設定されました。

琵琶湖の概要

■ チャプター2 (01:47~)



概要

- 琵琶湖は日本最大の湖で、滋賀県の約 1/6 を占めています。
- 約 440 万年前に誕生し、独自の進化により 60 種以上の固有種が生息しています。
- 琵琶湖の水は滋賀県だけでなく、京都府、大阪府、兵庫県の約 1450 万人が利用しています。

解説

○琵琶湖の大きさ

琵琶湖は日本最大の湖で、滋賀県全体の約 6 分の 1 を占めています。

- 面積 約 669.26 平方キロメートル(淡路島、東京 23 区より少し大きい)
- 南北の長さ 約 63.49 キロメートル、東西の最大幅約 22.8 キロメートル
- 湖岸の周囲長 約 235.20 キロメートル
- 水深(平均) 約 41.2 メートル、水深(最大)約 103.58 メートル



図 琵琶湖

○世界有数の古代湖

- 琵琶湖は約 440 万年の歴史をもつ世界有数の「古代湖」
- 10 万年以上の歴史を持つ湖は世界でも約 20 しかなく、日本では琵琶湖のみ

○琵琶湖の固有種

固有種とは、特定の地域にのみ生息する生物を指し、琵琶湖には 60 種以上の固有種が確認されています。

琵琶湖の固有種(一例)		
<p>ニゴロブナ</p>  <p>琵琶湖に生息するコイ科の魚で、最大で約 40cm に成長します。「ふなずし」の材料として古くから利用され、滋賀県の伝統的な食文化を支えています。</p>	<p>アナンデルヨコエビ</p>  <p>琵琶湖の深い場所に生息し、体長は約 15mm です。淡褐色の体を持ち、湖底で他の生物の餌となるなど、生態系の中で重要な役割を果たしています。</p>	<p>ネジレモ</p>  <p>琵琶湖固有の水草で、スクリューバリスネリアとも呼ばれます。その名の通り、葉がねじれた形状をしており、水中で独特の景観を作り出しています。</p>

○琵琶湖の給水人口



図 琵琶湖の給水区域(H30 年度)

滋賀県	1,204,862 人
京都府	1,803,492 人
大阪府	8,811,011 人
兵庫県	2,973,669 人
合計	14,793,034 人 約 1,450 万人※

※10万人以下を、50 万人単位で切り捨てています

表 琵琶湖水利用区域内給水人口(H30 年度)

琵琶湖の水は、滋賀県をはじめ、京都府、大阪府、兵庫県の約 1,450 万人の人々に生活用水として供給されています。また、工業用水や農業用水としても広く利用されており、近畿地方の重要な水資源となっています。

琵琶湖の課題

■ チャプター3 (02:31~)



概要

- 琵琶湖はかつて様々な問題を抱えていました。
- 琵琶湖は昔から大雨による洪水被害に悩まされてきました。このため治水工事等を大規模に行い、その結果、洪水被害は大きく減少しました。
- 1977年に発生した「淡水赤潮」は、生活排水や工場排水などに含まれる窒素やりんが大きな原因でした。県民による、洗濯にりんを含まない粉せっけんを使用する「石けん運動」をきっかけに1980年に「琵琶湖条例」が策定され、その後水質は改善されました。
- しかし魚のにぎわいは戻っていません。その原因は、川から湖へのつながりの変化、外来魚の増加、気候変動など様々考えられますが、いずれにせよ私たち人間の生活が豊かで便利になるにつれて、琵琶湖の生き物に大きな変化があらわれています。
- 琵琶湖の問題を解決するためには、いろいろな原因を考え、自分たちの問題として行動することが大切です。

解説

○琵琶湖の洪水について

琵琶湖には大小合わせて400本以上の川が流れ込んでいますが、琵琶湖から流れ出る自然の河川は瀬田川1本のみです。琵琶湖は大雨が降り一旦水位が上昇すると元に戻るのに長時間を要することから、琵琶湖周辺では古くから家屋や田んぼの浸水被害に悩まされてきました。

明治時代以降、瀬田川に洗堰が設置されたり、「琵琶湖総合開発事業」(1972~1997)の一環で大規模な治水対策が行われたりし、洪水被害は大幅に軽減され、地域の安全と生活環境が改善されました。



写真 琵琶湖大水害
(1896(明治29)年9月)
近江八幡市江頭町の様子

○せっけん運動と琵琶湖条例



写真 琵琶湖に発生した淡水赤潮



写真 合成洗剤の追放を目指した石けん運動(1970年代)

1977年5月、琵琶湖で「淡水赤潮」が大発生し、湖水が赤褐色に変色したり、水道水の異臭味障害が発生したりしました。原因の一つが合成洗剤に含まれる「りん」であることを知った県民、特に地域の女性たちを中心に、洗濯に「りん」を含まない粉石けんの使用を推奨する「石けん運動」が始まりました。この運動は県全体に広がり、1980年には「琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(通称:琵琶湖条例)が制定されました。これにより、りんや窒素の排出規制や、下水道の整備が進み、琵琶湖の水質は徐々に改善していきました。

■ びわ湖の日

琵琶湖条例施行の翌年(1981年)には、条例施行日である7月1日が「びわ湖の日」に決まり、琵琶湖を守る大切な日として現在も清掃活動をはじめ県民による様々な取組が行われています。

○琵琶湖の漁獲量

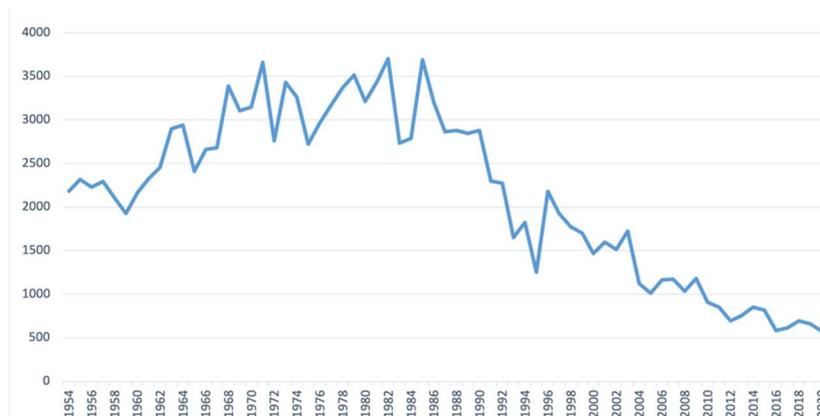


図 琵琶湖漁業の漁獲量の推移(貝、エビ類を除く)

琵琶湖の水質は改善されてきましたが、漁獲量は1980年代をピークに減少傾向にあります。この原因には、川から湖へのつながりの変化や外来魚の増加、気候変動など色々考えられますが、いずれも私たち人間が豊かさや便利さを追求してきた結果起こったものといえます。元の豊かな生態系を取り戻すためには、これらの要因への対応が求められています。

※この動画における「魚の数」とは漁獲量を指します。(以下同じ)

MLGs の概要

■ チャプター4 (05:51~)



概要

- MLGs(マザーレイクゴールズ)は、琵琶湖を切り口として、琵琶湖を大切にしながら、2030年までに持続可能な社会を目指す13の目標で、琵琶湖版のSDGsです。
- MLGsは、SDGsと琵琶湖を通じた私たちの取組の間に置いたゴールです。世界規模の目標であるSDGsに対し、MLGsはより具体的な行動をイメージしやすくなっています。つまりMLGsはSDGsの取組をより理解しやすくしてくれます。
- MLGsは県民や団体、企業、研究者が協力し、2021年7月1日の「びわ湖の日」40周年に発表されました。現在、MLGsを通じて様々な人たちが活発に活動し、力を合わせて琵琶湖を守ろうと頑張っています。

解説

○MLGsとSDGsの関係性



図 SDGs、MLGsと私たちの取り組みとの関係性

マザーレイクゴールズ(MLGs)は、世界全体の目標であるSDGsと、私たちの具体的な行動をつなぐより身近な目標です。SDGsの視点から見ると、MLGsは琵琶湖を通じてSDGsを具体的な行動に落とし込む仕組みであり、その取り組みはSDGsの達成に貢献します。

一方、MLGsの視点からは、琵琶湖を通じて、石けん運動以来40年にわたる県民や多様な主体による活動がSDGsにつながっていることを再認識する仕組みとなっています。

エンディング



概要

MLGs は、滋賀県の共通目標であると同時に、持続可能な社会を目指す全ての人への問いかけです。「2030年、理想の琵琶湖とは？」「自分たちにできることは何か」を考え、行動することが求められています。

【参考】 MLGs と SDGs の関係

SDGs × MLGs

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 貧困をなくそう								●	●	●			●
2 飢餓をゼロに		●											
3 すべての人に健康と福祉を									●	●	●	●	●
4 質の高い教育をみんなに			●			●				●	●	●	●
5 ジェンダー平等を達成しよう												●	●
6 安全な水とトイレを世界中に	●	●		●	●	●					●	●	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに							●						
8 働きがいも経済成長も		●	●		●	●	●	●	●		●	●	
9 産業と雇用創出を促そう	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
10 人や国ごとの豊かさを縮めよう									●	●		●	
11 住み続けられるまちづくりを	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12 つくばない、つかう減らそう	●	●		●		●			●		●	●	
13 気候変動に具体的な対策を	●	●	●		●		●		●				
14 海の豊かさを増そう	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●
15 陸の豊かさも守ろう	●	●	●		●	●	●		●	●			●
16 平和と公正をすべての人に											●	●	●
17 パートナーシップで目標を達成しよう				●		●			●	●	●		●

暮らしの中の MLGs



【本映像の概要】

本動画では、MLGs の 13 ゴールそれぞれの概要とアクション例の説明を目的としています。アクション例では、日常生活の中で取り組める身近なものを中心に紹介しています。また、動画の後半では MLGs の達成に向けて取り組みを行う2人の方の活動を紹介しています。

【活用方法】

本動画は MLGs のゴールごとにチャプターが分かれています。全てを一度に再生しても良いですし、途中、チャプターごとに停止し、先生が指導を加えながら視聴するなど、授業の進め方にあわせて有効に活用してください。

◆ 総再生時間：18分31秒

◆ チャプター

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. オープニング (0:00~) | 10. Goal9 の紹介 (08:32~) |
| 2. Goal1 の紹介 (0:26~) | 11. Goal10 の紹介 (09:28~) |
| 3. Goal2 の紹介 (01:15~) | 12. Goal11 の紹介 (10:14~) |
| 4. Goal3 の紹介 (02:07~) | 13. Goal12 の紹介 (11:06~) |
| 5. Goal4 の紹介 (03:01~) | 14. Goal13 の紹介 (11:56~) |
| 6. Goal5 の紹介 (03:58~) | 15. 取組事例紹介 駒井健也さん (12:47~) |
| 7. Goal6 の紹介 (04:57~) | 16. 取組事例紹介 清水広行さん (15:19~) |
| 8. Goal7 の紹介 (06:11~) | 17. エンディング (18:01~) |
| 9. Goal8 の紹介 (07:24~) | |

オープニング

■ チャプター1 (0:00~)

本パートの概要

本動画の導入パートでは、全体像を説明しています。この動画では、MLGs の 13 の目標、私たちが日常生活で取り組める具体的な行動例、そして MLGs に実際に取り組む人々の活動を、全体のダイジェスト映像とともに紹介しています。

Goal1 | 清らかさを感じる水に

■ チャプター2 (0:26~)



本パートの概要

Goal1『清らかさを感じる水に』の概要とアクション例を紹介するパートです。

石けん運動以来、多くの人々の努力によって琵琶湖の水質は改善され、清らかな水が保たれています。美しい琵琶湖は、人々に安らぎを与え、環境を守る行動のきっかけとなっており、これからも飲み水として安心できる清らかな水を守ることが大切です。

MLGs Goal1 | 清らかさを感じる水に



アオコや赤潮などのプランクトンの異常発生が抑制され、飲料水としても問題がなく、思わず触れたいくなるような清らかな水が維持される

【動画で紹介しているアクション例】

- 歯磨きをするときに水を止めて節水を心がける。
- 食器の汚れを古い布や紙で拭き取ってから洗うなど水を汚さない工夫をする。

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 使い終わった食用油は流しに捨てない
- お風呂の残り湯を再利用する
- 米のとぎ汁を植物の水やりに使う
- 家族内で自然環境について話し合う

指導のポイント

- 琵琶湖の水は、滋賀県のほか、京都府、大阪府、兵庫県の約 1450 万人に利用されています。琵琶湖の水質を良い状態に保つことは、私たちだけでなく下流に住む多くの人達の健康や暮らしにも大切です。

Goal2 | 豊かな魚介類を取り戻そう

■ チャプター3 (01:15~)



本パートの概要

Goal2『豊かな魚介類を取り戻そう』の概要とアクション例を紹介するパートです。

琵琶湖では縄文時代から漁業が行われ、ふなずしなどの伝統食でも知られています。最近、琵琶湖の水はきれいになってきましたが、魚の数が減少しています。魚が住みやすい環境を整え、これからもたくさんの魚が獲れるようにすること、そして琵琶湖の魚を楽しむことが大切です。

MLGs Goal2 | 豊かな魚介類を取り戻そう



在来魚介類の生息環境が改善し、資源量・漁獲量が持続可能な形で増加するとともに、人々が湖魚料理を日常的に楽しむ

【動画で紹介しているアクション例】

- 琵琶湖の旬の魚介類や、それらを使用した惣菜を購入し、食べる。

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 小さな自然再生活動に参加する。
- 県内の川に釣りに行く

指導のポイント

- 琵琶湖の水質改善が進む一方で、魚の数が減少している現象があります。これは、琵琶湖の魚が暮らしやすい水質と、私たちが清らかさを感じる水質は必ずしも一致しない可能性を示しています。この現象について説明し、環境と生態系のバランスの重要性について考えます。
- 琵琶湖でとれる魚介類やその加工品を購入することが、琵琶湖の魚介類の保護にもつながることを説明します。琵琶湖産の魚介類を使った伝統料理や旬の食材について調べ、琵琶湖の恵みをどのように楽しむことができるかを考えます。

Goal3 | 多様な生き物を守ろう

■ チャプター4 (02:07~)



本パートの概要

Goal3『多様な生き物を守ろう』の概要とアクション例を紹介するパートです。

琵琶湖やその周りには魚だけでなく、たくさんの動植物が共存し、自然のバランスが保たれています。しかし、外来種が増えていることで、もともと琵琶湖に住んでいた植物や魚が食べられたりして減ってしまうという問題も起きています。生き物たちのバランスを取り戻し、自然の恵みを感じる人を増やすことが大切です。

MLGs Goal3 | 多様な生き物を守ろう



生物多様性や生態系のバランスを取り戻す取組が拡大し、野生生物の生息状況が改善するとともに、自然の恵みを実感する人が増加する

【動画で紹介しているアクション例】

- 生き物を飼うときは勝手に外に逃したりせず、最後まで責任持って飼育する。
- 釣りなどで捕まえた外来種はもとに戻さない(リリースしない)ようにする。

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 地域の自然観察会に参加する。
- 植樹や間伐など、森林保全活動に参加する。
- 外来魚釣り大会に参加したり、外来魚を使った料理を食べる

■ 外来魚回収ボックス

釣り上げたブラックバスやブルーギルを、琵琶湖をはじめ県内の水域にリリースすることは条例で禁止されています。県では、釣り上げた外来魚を、湖岸や漁港に設置している「外来魚回収ボックス」や「外来魚回収いけす」に入れるよう呼びかけています。

Goal4 | 水辺も湖底も美しく

チャプター5 (03:01~)



本パートの概要

Goal4『水辺も湖底も美しく』の概要とアクション例を紹介するパートです。

ここでは、川や琵琶湖にまだ多くのごみが捨てられている現状や、一度出たごみを完全に回収することの難しさ、最初からごみを減らすことの大切さを紹介しています。また、小さなプラスチックごみであるマイクロプラスチックが大きな問題であること、そして川や湖にごみがなく、きちんと手入れされた美しい水辺を守ることの重要性も伝えています。

MLGs Goal4 | 水辺も湖底も美しく



川や湖にごみがなく、砂浜や水生植物などが適切に維持・管理され、誰もが美しいと感じられる水辺景観が守られる

【動画で紹介しているアクション例】

- 4R(リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル)を意識してごみを減らす

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 清掃活動に参加する
- ごみの分別をしっかりとる
- 買い物にエコバッグを持参したり、出かけるときにマイボトルを持って行く

■ 「4R」とは

次の4つの英語の頭文字「R」をとった、ごみを減らす取り組みのことです。4つの「R」には優先順位があり、これらの取り組みを優先度順に行うことで「ごみ減量」の効果が高くなります。

- ① Refuse(リフューズ): いらぬものは断ること
- ② Reduce(リデュース): ゴミが出るのを抑えること
- ③ Reuse(リユース): ものを捨てずに繰り返し使うこと
- ④ Recycle(リサイクル): 違うものに作り変えて再び使うこと

■ 「しがプラスチックチャレンジ」とは

「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」は、プラスチックごみが川を通じて内陸から海に流れ込み、世界でさまざまな問題を引き起こしている現状に対応するため、滋賀県が令和5年10月から展開している取り組みです。県民の皆さんにライフスタイルを見直してもらい、プラスチック代替製品の利用やマイボトルの持参など、プラスチックごみ削減に向けた実践行動を後押ししています。プロジェクトでは、毎月一日を「しがプラチャレンジの日」、10月を「しがプラチャレンジ推進月間」とし、プラスチックごみ削減の全県的なムーブメントにつなげることを目指しています。

関連 WEB ページ: <https://www.pref.shiga.lg.jp/gomizero/>

Goal5 | 恵み豊かな水源の森を守ろう

■ チャプター6 (03:58~)



本パートの概要

Goal5『恵み豊かな水源の森を守ろう』の概要とアクション例を紹介するパートです。

滋賀県の面積のおよそ半分が森林であり、その森が琵琶湖の水を作り出し、土砂崩れを防いで私たちの暮らしを守っています。もし森の手入れをする人がいなくなると、森が荒れてしまい、土砂崩れを防ぐ力や水をたくわえる力が弱まってしまいます。森を守るためには、木を植えるだけでなく、その木を使って森林を良い状態に保つことが大切です。

MLGs Goal5 | 水辺も湖底も美しく



水源涵養や生態系保全、木材生産、レクリエーションなどの多面的機能が持続的に発揮される森林づくりが進み、人々が地元の森林の恵みを持続的に享受する

【動画で紹介しているアクション例】

- 山に出かけて森を守る活動に参加してみる
- 滋賀県の木を使った商品を積極的に使って、森を守る仕事を応援する

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 水源の森のツアーに参加し、その大切さを家族や周囲に伝える。
- シカ肉など、ジビエ料理を食べる

Goal6 | 森川里湖海のつながりを健全に

■ チャプター7 (04:57~)



本パートの概要

Goal 6『森川里湖海のつながりを健全に』の概要とアクション例を紹介するパートです。

ここでは、琵琶湖には水と一緒に土砂やごみが流れ込むこと、そして湖から川、田んぼ、そして海へと水がつながっていることを紹介しています。水は蒸発して雲になり、再び雨として山に戻るという循環を繰り返し、森、川、里、湖、海が一体となって自然のつながりを保っています。MLGs ではこのつながりを『森川里湖海(もり・かわ・さと・うみ・うみ)』と呼び、琵琶湖から海までのつながりを大切に、生き物が移動できる環境を守ることの重要性を伝えています。

MLGs Goal6 | 森川里湖海のつながりを健全に



森から湖、海に至る水や物質のつながりが健全に保たれ、湖と川、内湖、田んぼなどを行き来する生き物が増加する

【動画で紹介しているアクション例】

- 自分の身近な川がどのようにつながっているのかを知るため、川の水源まで探検してみる
- 京都や大阪などの淀川流域でのゴミ拾いに参加するなどして、琵琶湖が海につながっていることを意識してみる

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 琵琶湖システムの取組(魚のゆりかご水田の魚道設置やビワマスの産卵床整備等)に参加する。
- 琵琶湖の恵み(魚介類や農産物等)に感謝し、積極的に食べる。
- 淀川流域内の多様な人と交流する

Goal 7 | びわ湖のためにも 温室効果ガスの排出を減らそう

■ チャプター8 (06:11~)



本パートの概要

Goal 7『びわ湖のためにも 温室効果ガスの排出を減らそう』の概要とアクション例を紹介するパートです。琵琶湖では冬に表層から底層まで水が混ざる『全層循環』が起こり、湖全体に酸素が行き渡ります。しかし、最近では地球温暖化などの影響で全層循環が起こらない年もあり、湖底に酸素が十分に届かず生き物に悪影響を及ぼす恐れがあります。気候変動は私たちの生活にも影響を与えるため、日常生活や仕事で出る温室効果ガスを減らし、琵琶湖と地球の環境を守ることが大切です。

MLGs Goal7 | びわ湖のためにも 温室効果ガスの排出を減らそう



日常生活や事業活動から排出される温室効果ガスを減らす取組が広がり、琵琶湖の全層循環未完了などの異変の進行が抑えられる

【動画で紹介しているアクション例】

- 移動する時は、車ではなく、徒歩や自転車、公共交通機関を積極的に利用する
- 電気を使う時には、こまめにスイッチを消すなどして節電を心がける

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 使用後に回収可能なものは、正しく分別し積極的にリサイクルを行う。
- 食材を買いすぎず、使い切る。また、残さず食べる。
- 使い捨てではなく、長く使える製品を選ぶ。

指導のポイント

- 湖の表層から底層までの水が完全に混ざり合う「全層循環」の仕組みやその重要性を説明し、それが地球温暖化をはじめとする気候変動によって影響を受けていることを理解できるようにします。全層循環が不完全になると、夏から秋にかけて湖底の酸素が不足し、湖の生き物に悪影響が出ることがあると伝え、湖や生き物の健康が気候変動と密接に関係していることを学びます。
- 温室効果ガスが気候に与える影響を説明し、魚や生き物が住みにくくなるだけでなく、農作物の収穫が少なくなるなど、私たちの生活にも様々な影響を及ぼすことを伝えます。これにより、省エネを心がけたりリサイクルを推進したりする温暖化対策が、身近な環境保護にもつながることを意識できます。

■ 全層循環

全層循環は、「琵琶湖の深呼吸」とも称される重要な現象です。通常、春から夏にかけて湖の表面と深部で水温差が生じ、上下の水が混ざりにくなります。しかし、秋から冬にかけて気温が下がると、湖全体の水温が均一化し、風の影響も加わって湖水が上下に混ざり合います。これにより、湖底まで酸素が供給され、水質が改善されます。全層循環が起これないと、湖底の酸素が不足し、生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。

■ CO₂ ネットゼロ

CO₂の(人為的な)排出を減らし、森林などの吸収源を確保することで均衡を図ること。

滋賀県は、2050年までにCO₂ ネットゼロ＝温室効果ガス実質排出量ゼロの達成を目指す「しがCO₂ ネットゼロムーブメント」を推進しています。

Goal 8 | 気候変動や自然災害に強い暮らしに

■ チャプター9 (07:24~)



本パートの概要

Goal 8『気候変動や自然災害に強い暮らしに』の概要とアクション例を紹介するパートです。

気候変動に伴い、豪雨や渇水などの自然災害が増えて私たちの生活に大きな影響を与えています。災害に備えたり、気候変動に強い作物を育てたりすることが大切ですが、人間の生命や財産を守るために作られた様々な施設が琵琶湖の生き物の住みやすさに影響を与えることもあります。私たちの暮らしを守りながら、自然とのバランスを保つことが大切です。

MLGs Goal8 | 気候変動や自然災害に強い暮らしに



豪雨や渇水、温暖化などの影響を把握・予測し、そうした事態が起きても大きな被害を受けない暮らしへの転換が進む

【動画で紹介しているアクション例】

- 自分の住んでいる地域の、避難施設やハザードマップなどを確認して、災害に備える
- こまめな水分補給などの熱中症予防を行い、暑さから身を守る

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 地域の防災訓練や講習会に参加する
- 庭に木や植物、野菜などを植える
- 寄り合いや祭りなどを通じて、地域の人々のつながりを普段から強めておく

Goal 9 | 生業・産業に地域の資源を活かそう

■ チャプター10 (08:32~)



本パートの概要

Goal 9『生業・産業に地域の資源を活かそう』の概要とアクション例を紹介するパートです。

地域には自然だけでなく、人や文化、人とのつながりといった大切な資源があります。地域の資源を活かした商品やサービスを選ぶことで地域経済が活性化し、地元の商品を選ぶことで輸送時の二酸化炭素を減らせます。このように、地域の資源を活用することが、環境保護にもつながります。

MLGs Goal9 | 生業・産業に地域の資源を活かそう



地域の自然の恵みを活かした商品や製品、サービスが積極的に選ばれ、地域内における経済循環が活性化し、ひいては環境が持続的に守られる

【動画で紹介しているアクション例】

- 買い物をするときは、企業や事業者の SDGs や MLGs への取組を調べる
- 環境こだわり農産物など地元で作られた環境にやさしい商品を選んで、MLGs に取り組む企業や地元のお店を応援する

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 地域の催しやイベントに積極的に出掛ける
- 地域の資源や魅力を SNS 等で PR する

指導のポイント

- 「地域の資源」には、自然だけでなく、人や文化、つながりも含まれることを説明し、身近な地域の例を出して考えます。
たとえば、地元の特産品や地域行事など、子供たちが知っているものを挙げると理解が深まります。
- 環境に配慮した商品や地元のものを選ぶことがMLGsの達成につながることを伝えます。例えば、地元でとれた野菜など、子供たちが選べる具体的な商品を挙げ、自分の選択が環境に与える影響を考えます。

■環境こだわり農産物

滋賀県では、化学合成農薬や化学肥料の使用を通常の半分以下に抑え、さらに濁水の流出防止など、琵琶湖や周辺的环境にやさしい技術で栽培された農産物を「環境こだわり農産物」として県が認証する制度を取り入れています。



■世界農業遺産「琵琶湖システム」

「琵琶湖システム」とは、「エリ漁」などの琵琶湖の伝統漁業や、琵琶湖の魚が繁殖にやってくる「魚のゆりかご水田」、水環境や生態系の保全に寄与する「環境こだわり農業」や「水源林の保全」など、滋賀の風土と歴史のなかで生み出されてきた「琵琶湖と共生する農林水産業」のこと。2022年7月に国連食糧農業機関により「世界農業遺産」に認定されました。



Goal 10 | 地元も流域も学びの場に

■ チャプター11 (09:28~)



本パートの概要

Goal 10『地元も流域も学びの場に』の概要とアクション例を紹介するパートです。

琵琶湖や地球の環境問題を解決する第一歩は『知ること』です。自然を大切にする心を育むために、さまざまな体験を通じて琵琶湖や自分が生活する地域について学び、それが私たちの暮らしとどう関わっているのかを理解することが大切です。

MLGs Goal10 | 地元も流域も学びの場に



琵琶湖や流域、自分が生活する地域を環境学習のフィールドとして体験・実践する機会が豊富に提供され、関心を行動に結びつけられる人が増加する

【動画で紹介しているアクション例】

- 身近な自然を観察し、遊びや体験を通じて普段から自然と触れ合う
- 琵琶湖博物館などの環境学習施設に行って環境についてより深く学んでみる

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 家族内で地域の自然環境について話し合う

Goal 11 | びわ湖を楽しむ 愛する人を増やそう

■ チャプター12 (10:14~)



本パートの概要

Goal 11『びわ湖を楽しむ愛する人を増やそう』の概要とアクション例を紹介するパートです。

琵琶湖を楽しむことが、琵琶湖への愛着と環境保護への意識を高めるきっかけになります。水辺で遊んだり、美しい景色を楽しんだり、ウォータースポーツを体験するなど、琵琶湖を好きになる機会を増やすことが、地域の人々が琵琶湖を守る力につながります。

MLGs Goal11 | びわ湖を楽しむ 愛する人を増やそう



レジャーやエコツーリズムなどを通じて自然を楽しむ様々な機会が増え、琵琶湖への愛着が育まれる

【動画で紹介しているアクション例】

- 水泳やカヤック、サップ、サイクリングなど、自分に合った琵琶湖の楽しみ方を見つける。
- みんなが気持ちよく遊べるようマナーを守る。

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 琵琶湖や自然、暮らしの風景を写真に撮る
- 滋賀の特産品を手土産やプレゼントにする
- 琵琶湖や自然に関する情報発信を行う

Goal 12 | 水とつながる祈りと暮らしを次世代に

チャプター13 (11:06~)



本パートの概要

Goal 12『水とつながる祈りと暮らしを次世代に』の概要とアクション例を紹介するパートです。

琵琶湖周辺には、寺社や伝統的な食文化であるふなずし、エリ漁など、水とともに育まれた文化があります。現在の生活では水道の利用が当たり前となり、川や湖とのつながりを感じにくくなっていますが、水とともに生きてきた文化に触れることで、琵琶湖が人と自然をつなぐ大切な場所であることを学び、水とつながる祈りと暮らしを次の世代へ伝えていくことが重要です。

MLGs Goal12 | 水とつながる祈りと暮らしを次世代に



水を敬い、水を巧みに生活の中に取り込む文化や、水が育む生業や食文化が、将来世代へと着実に継承される

【動画で紹介しているアクション例】

- 滋賀の伝統的なヨシを使った製品を使用する
- 地元の伝統的なお祭りなどに参加して積極的に文化に触れ、学んでみる

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 水とつながる歴史や文化をめぐるツアーに参加する
- 滋賀の伝統的な郷土食を作る

Goal 13 | つながりあって目標を達成しよう

■ チャプター14 (11:56~)



本パートの概要

Goal 13『つながりあって目標を達成しよう』の概要とアクション例を紹介するパートです。

琵琶湖の周りにはさまざまな年代や性別、地域の人々が暮らしており、それぞれが異なる意見や考え方を持っています。MLGsの目標を達成するためには、こうした違いを理解し、みんなで話し合いながら、全ての目標のつながりを意識して進めることが大切です。

MLGs Goal13 | つながりあって目標を達成しよう



年代や性別、所属、経験、価値観などが異なる人同士、また異なる地域に住まう人同士がつながり、琵琶湖や流域の現状、これからについて対話を積み重ね、その成果を共有できる機会が十分に提供される

【動画で紹介しているアクション例】

- 琵琶湖のゴミ拾いやヨシ刈りといった、環境を守る活動や、MLGsに関するワークショップなどに参加し、様々な人たちと交流してみる

【動画で紹介していないその他のアクション例】

- 生産者と消費者をつなぐ朝市や直売所を利用する

取組事例紹介 駒井健也さん

■ チャプター15 (12:47~)

本パートの概要



【内容】

琵琶湖の漁師でフィッシャーアーキテクト代表の駒井健也(こまい たつや)さんの取り組みを紹介するパートです。駒井さんは、1000年以上の歴史を持つ伝統的な漁法「エリ漁」を通じて、多様な魚を安定して獲るとともに、琵琶湖にエリがある風景を守ることを目指しています。また、漁業体験やイベントを通じて、琵琶湖の自然や文化の魅力を多くの人々に伝える活動にも力を入れています。こうした駒井さんの活動は、「Goal 2 豊かな魚介類を取り戻そう」や「Goal 12 水とつながる祈りと暮らしを次世代に」の達成に貢献していることを紹介しています。

【取組と結びつくゴール】

	<p>MLGs Goal 2「豊かな魚介類を取り戻そう」</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 駒井さんは、待ち受け型の漁法であるエリ漁を中心に活動しています。この方法は、獲りすぎないことで魚の数を守りながら、多様な魚介類を安定して獲ることができ、琵琶湖の水産資源の保護に貢献しています。
	<p>MLGs Goal 12「水とつながる祈りと暮らしを次世代に」</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 1000年以上の歴史を持つエリ漁という伝統漁法を守り、琵琶湖の水と共に育まれた文化を次世代に継承しています。

指導のポイント

- 駒井さんが行っているエリ漁は、待ち受け型の漁法で、取りすぎないことで琵琶湖の魚を守っています。さらに、エリ漁は 1000 年以上続く琵琶湖の伝統でもあります。この漁法を守りながら、駒井さんが次の世代に伝えていこうとしている姿から、琵琶湖の自然と文化を守ることの大切さについて考えてみます。
- 動画で取り上げている「Goal 2(豊かな魚介類を取り戻そう)」と「Goal 12(水とつながる祈りと暮らしを次世代に)」以外にも、駒井さんの活動は「Goal 10(地元も流域も学びの場に)」や「Goal 13(つながりあって目標を達成しよう)」にも関連しています。

駒井さんの活動が結びつく他のゴールや、その理由について考えてみます。

- 駒井さんの行う漁業体験は、「Goal12」の達成につながるだけでなく、琵琶湖の漁業について学ぶ機会を人々に提供しているという点が「Goal10」の達成につながっています。
また、アーティストなどのさまざまな人々と連携した取り組みを行っていることが「Goal13」の達成に貢献しています。

取材対象者について



こまい たつや

駒井 健也 さん

フィッシャーアーキテクト代表

滋賀県で生まれ育ち、建築という軸から世界を見て周り、淡水ならではの山から琵琶湖までの自然と人との密接な暮らしをしながら食を届け、風景を構築していく漁師という職業に憧れて新規就漁を決意。琵琶湖にて 3 年の研修を経て独立後、伝統漁法のエリ漁という小型定置網の漁法を軸にてコアユを中心とした淡水魚約 30 種類を生産、販売。

その他、漁業体験「BI-WAKE UP」琵琶湖と共に働く仕事「BIWACO-WORKS」といった取り組みも通じて今まさに失われつつある、琵琶湖の風景の中で、琵琶湖に生かされ、琵琶湖の中から淡水の暮らしを届けて、後世へ繋ぐために取り組む。(フィッシャーアーキテクト HP より引用)

取組事例紹介 清水広行さん

■ チャプター16 (15:19～)

本パートの概要



【内容】

ONE SLASH(ワンスラッシュ)代表の清水広行(しみず ひろゆき)さんの取り組みを紹介するパートです。動画では、街中で羽釜を使い、その場でお米を炊いておにぎりを振る舞う「ゲリラ炊飯」をきっかけに、清水さんが行っているさまざまな活動を紹介しています。

清水さんは、田植えや稲刈りなどの体験イベントを通じて田んぼに集まるきっかけを作り、農業の魅力を伝え、地域に活気を与えています。また、「田んぼの水は森から来て湖へ流れる」という水の循環を意識し、田んぼが自然環境をつなぐ重要な役割を果たしているという清水さんの視点を通じて、農業と自然環境のつながりを伝えています。これらの取り組みが「Goal 6 森川里湖海のつながりを健全に」や「Goal 9 生業・産業に地域の資源を活かそう」の達成に貢献していることを紹介しています。

【取組と結びつくゴール】

	<p>MLGs Goal 6 「森川里湖海のつながりを健全に」</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 清水さんは、「田んぼの水は森から来て湖へ流れる」という水の循環を意識した活動を行っています。この視点を大切にし、田んぼが森や湖をつなぐ役割を果たしていると考え、農業を通じて自然環境のつながりを守っています。こうした取り組みは、森、川、里、湖、海が健全につながる仕組みを維持することに貢献しています。
	<p>MLGs Goal 9 「生業・産業に地域の資源を生かそう」</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 清水さんは田植えや稲刈りなどの体験イベントを開催し、農業の魅力を再発見してもらう活動を行っています。さらに、「ゲリラ炊飯」などのイベントを通じて地域の農産物の価値を広めています。これらの取り組みは、地域の農業や経済を活性化させ、地域の資源を活かした産業づくりに貢献しています。

指導のポイント

- 動画では、清水さんの活動がゴール 6「森川里湖海のつながりを健全に」や、ゴール 9「地域の資源を生かした生業と産業」に結びついていることが紹介されています。田んぼが森と湖をつなぎ、水の循環を守る役割を果たしていることや、農業体験やゲリラ炊飯が地域の資源を活かした取り組みであることを伝えます。
- 動画で取り上げている「Goal 6(森川里湖海のつながりを健全に)」と「Goal 9(生業・産業に地域の資源を生かそう)」以外にも、清水さんの活動は「Goal 10(地元も流域も学びの場に)」や「Goal 13(つながりあって目標を達成しよう)」にも関連しています。

清水さんの活動が結びつく他のゴールや、その理由について考えてみます。

- 清水さんは、田植えや稲刈りなどの農業体験を通して、地元や琵琶湖流域を学びの場として活用していることが「Goal 10」の達成に貢献しています。

また、さまざまな人々と連携して取り組みを行っていることが「Goal13」の達成に貢献しています。

取材対象者について



しみず ひろゆき

清水 広行さん

ONE SLASH 代表

滋賀県長浜市西浅井町出身の実業家。地元の若者と共に「ONE SLASH」を結成し、地域活性化に取り組む。地元の祭りを「面白く」することから始め、「西浅井はるマルシェ」や「西浅井ジビエ村」などのイベントを開催し、年間約 3,000 人が訪れる町へと成長させる。農業プロジェクト「RICE IS COMEDY®」では、農業の魅力を『楽しそう、儲かりそう』と発信し、街中で羽釜と薪を使って米を炊き、塩むすびを振る舞う「ゲリラ炊飯」などの取り組みで地元の米の PR にも力を入れる。また、MLGs(マザーレイクゴールズ)に関連する活動として、ボードゲームの開発や子どもたちを集めての田植え & 川での魚獲り体験イベントを MLGs 推進委員会の協力のもとで開催し、その様子は日本テレビの公式 YouTube チャンネルでも紹介されるなど、MLGs の情報発信にも貢献している。2022 年 9 月 15 日には、MLGs 分野別大使の第 1 号として「ふるさと活性化大使」に就任し、地域の活性化と MLGs の推進に尽力している。

エンディング

■ チャプター17 (18:01～)

本パートの概要

本パートでは、全体のダイジェスト映像を通じてこれまでの内容を振り返ります。私たち一人ひとりが日常生活の中でできる小さなアクションが、琵琶湖や持続可能な社会の実現に貢献することを伝え、視聴者に具体的な行動を呼びかける内容となっています。

MLGs に関連する WEB サイト



MLGs公式 WEBサイト「MLGs WEB」
<https://mlgs.shiga.jp>



◀ MLGs公式X (旧Twitter)
@MotherLakeGoals



◀ MLGs公式facebook
<fb.me/motherlakegoals>

MLGs公式Instagram ▶
@motherlakegoals



MLGs公式YouTubeチャンネル ▶
マザーレイクゴールズchannel



- MLGs アジェンダ (各ゴールの基本的な目標・理念、策定経緯・コンセプトがまとめられた資料)

http://mlgs.shiga.jp/wp-content/uploads/2021/06/MotherLakeGoals_Agenda_20210701.pdf



- シンびわ湖なう (MLGs 評価報告書)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/biwako/327485.html>

